

2025 年度 地黄湿地 保全活動報告

当初計画からの進捗・活動報告を枠内に記載

計画の概要

- ・2022 年度からの 3 カ年計画の積み残しについて対応する。
- ・上池周囲に防鹿柵を設置する。
- ・調査・モニタリングは継続的に実施する。
- ・普及啓発などについては、観察会の開催と大阪みどりのトラスト協会の HP やメールマガジンを活用して実施する。
- ・自然共生サイトへの登録申請に向けて関係者の理解を求める。

I 再生保全検討会議

4 月に開催する。中間報告など必要に応じて随時会議を開催する場合がある。

2 回開催した。

【4 /16】 主な議題：2024 年度活動報告、
2025 年度活動計画（案）について

【12/24】 主な議題：上池集水域の人工林伐採について



4/16 検討会議

II 保全作業

1 湿地部上池での防鹿柵、新設

ニホンジカによる湿地の植物への食害を防ぐことを目的に、上池湿地部を防鹿柵で囲う。(別紙添付)

NPO 法人日本森林ボランティア協会へ委託して実施し、3 月 28 日に完了した
2/5 には「防鹿柵設置大会」として、一般の方にも参加いただき、設置作業を行った



2/5 防鹿柵設置大会
化繊ネット防鹿柵設置



2/5 防鹿柵設置大会
木柵を活用した防鹿柵設置

2 周辺森林整備

人工林については草原地化を目指し、新たに 0.2ha の皆伐を実施する。(別紙添付)

NPO 法人日本森林ボランティア協会へ委託して実施し、
3 月 28 日に完了した



皆伐地

3 木道新設

観察会等で湿地部を周遊可能なルートを確認するため、下池に設置している木道から対岸へ木道を延長する。設置の際には観察者の行き違いを可能にする場所を設ける。(別紙添付)

大阪府森林組合豊能支店へ委託して実施し、3 月 31 日に
完了した

木道の材料は、朽ちた木道を更新する際に使用していた
焼き杭とあわせて、擬木杭を使用した



擬木杭を使用した木道延長部分

4 上池集水域の人工林伐採について

上池集水域の谷筋にある人工林を、湿地部への水の供給と、光環境の改善を目的として約 20 本伐採する。(別紙添付)

NPO 法人日本森林ボランティア協会へ委託して実施し、
3 月 28 日に完了した



上池集水域の人工林伐採

5 ボランティア定例保全活動

4 月～10 月は月 1 回とし、湿地内の動植物観察や希少種確認及び記録と、湿地外の林床整備等の作業を行う。11 月～3 月は月 2 回とし、湿地内の整備を行う。

(1) 湿地内の動植物観察や希少種確認及び記録

サギソウ等の希少種の分布状況、生育状況を記録する。

トキソウ（5/24）、サギソウ（8/23）の分布状況、生育状況を記録した（別紙添付）



サギソウの分布・生育状況記録

(2) 草原地化部の保全・草刈等

湿地袖部で防鹿柵を設置し草原地化を目指している部分は、引き続き植生管理のための草刈などを実施する。

下池全域のより広範囲に防鹿柵を設置したため、2/28のボランティア定例活動時に草刈りと、小面積で囲っていた防鹿柵の撤去を実施



湿地袖部草原地化場所の草刈り・防鹿柵撤去

(3) 湿地内の水環境の保全・草刈等

植物の活動が少なくなる11月以降、湿地内で水の偏りがいないか確認し、湿地全体に水が行き渡るように土嚢などを設置する。

貧栄養の水質と光環境を保つため、湿地全域について枯れた植物体の刈り払い、撤去を行う。

冬季（12月～3月）に湿地内の水の偏りは認められなかったため、土嚢などの設置は行わなかった
湿地全域の枯れた植物体を刈払い、撤去を行った



植物体の刈払い、撤去

(4) 周辺森林の植生調査地の保全・草刈等

2022年度及び2023年度に設置した周辺森林の植生調査地は防鹿柵内の遷移を確認し、必要に応じて順応的管理を行う。

10/24 に上田副会長・武田委員により植生調査地内の遷移を確認。今年度の順応的管理は不要と判断した。



周辺森林の植生調査

(5) 外来種対応

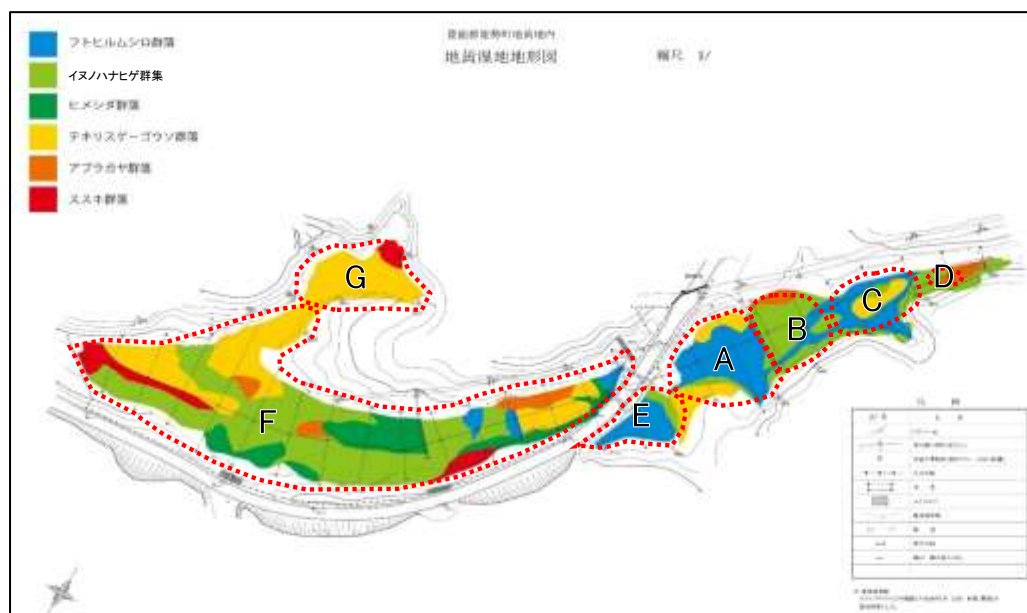
確認された外来種については駆除などの対応を行う。

- ・ウシガエル：捕獲用のカニ籠を引き続き設置し、夏季に卵塊がないか目視で確認する。
- ・メダカ：引き続き状況を確認し、ボランティア定例活動時に駆除を行う。駆除は観察会・

ウシガエルのオタマジャクシを 100 匹ほど確認。数が多かったため、駆除はできなかった
メダカは、平井会長・ボランティア・観察会参加者による駆除を実施
調査区域図 E 内のメダカを完全に駆除するため、増水時に A のメダカが E に侵入することを防ぐ、畔板を 12/13 に設置



保全活動体験会及び、大阪府立豊中高等学校能勢分校の現地授業の機会も利用し、外来種問題の啓発を兼ねて、参加者の協力を得て実施する。



調査区配置図

IV 調査・モニタリング

1 植物調査

2021 年度に草地化及び掘削を行ったコドラートの追跡調査と、2022 年度及び 2023 年度に設定した周辺森林の植生調査地の調査を秋に 1 回実施する。確認された植物に応じて順応的管理を行う際の参考とする。

なお、掘削を行ったコドラートの追跡調査は、今年度実施して一旦終了し、周辺森林の植生調査地の調査は次年度以降も数年間継続する。

委託先：武田義明名誉教授（神戸大学）、上田萌子准教授（大阪公立大学）

10/24 に各調査を実施した（別紙添付）



掘削地の植生調査

2 哺乳類調査

現在 2 台で実施している自動撮影カメラによる調査を継続する。2 台のうちの 1 台は哺乳類が映らない機会が多いため、場所を移設する。調査は大阪府立環境農林水産総合研究所（環農水研）と共同で実施し、記録した写真や動画は大阪みどりのトラスト協会の HP などで公開する。

6/30、7/24、8/9、9/27、11/23、3/8 にデータを回収した

9/27 時点で調査を開始した 2024/5/27～の総計で、哺乳類：6 種 285 頭、鳥類：6 種 7 羽（ほかに不明種 5 羽）が確認された

記録した写真や動画は、環農水研の研究発表資料として使用されたが、大阪みどりのトラスト協会の HP などで公開はできなかった。

3 水生生物調査

湿地内および周辺の水生動物を、年 3 回の調査を通して種数の変遷を調査する。調査対象は節足動物および両生類とする。

委託先：平井規央教授（大阪公立大学）

平井会長による調査が 4/11、6/7、10/23 に行われた。（別紙添付）

4 動植物観察、希少種確認・記録

ボランティア定例活動において、サギソウ等の希少種の分布状況、生育状況を記録する。（再掲）

トキソウ（5/24）、サギソウ（8/23）の分布状況、生育状況を記録した。

V 普及啓発など

1 地元高校環境学習

地黄湿地を活用した環境教育を行う。

大阪府立豊中高等学校能勢分校の生徒が、10月の毎週水曜日に地黄湿地及び校舎内で、地黄湿地の成り立ち・保全活動内容・生息生育する動植物などについて学んだ観察会にも参加。講師はしなかったが地黄湿地で授業を行った感想などを参加者の前で発表した



観察会に参加した生徒

2 一般参加観察会

植物紹介を中心とした観察会を年に3回実施する。動植物や保全活動に関心のある人を対象に、自然環境についての学び場とし、保全活動への参加を促進させる。

- ・【6月】トキソウ・ハッチョウトンボ・水生動物観察会
- ・【7月】サギソウ観察会
- ・【10月】秋の植物観察会

【6/7】 27名参加

【8/3】 22名参加

(植物の開花状況が送れていたため、前年より1週遅らせて、8月に開催)

【10/29】 21名参加



6月7日



8月3日



10月29日

3 巡回パトロール

地元地黄区の協力を得て、春～秋は月2～3回、冬季は月1回、年間合計25回の巡回パトロールを実施する。

計画通り、春～秋は月2～3回、冬季は月1回実施

4 他団体が地黄湿地を活用して行うイベントのサポート

企業等による CSR 活動への支援、メディア取材への対応、他団体が実施する観察会への講師派遣等を行う。

【11/8】大阪教育大学付属高校池田校舎の高校生 3 名の

保全活動体験（メダカ駆除等）を受入れ

【12/27】NPO 法人ひらかた生物飼育部 LABO12 名の

保全活動体験（防鹿柵設置・刈った草の運び出

し等）を受入れ



ひらかた生物飼育 LABO

5 能勢町より表彰

長年にわたり地黄湿地を始めとする能勢町内の自然環境保全活動などの実績が評価され、11月3日「能勢里山文化ゆめまつり」で行われた「令和7年能勢町長賞 表彰式」において能勢町より表彰された



表彰式の様子

VI 自然共生サイトへの登録の検討

地域生物多様性増進法に基づく「自然共生サイト」（民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域）への登録申請に向けて関係者へ理解を求める。

1月に行われた土地所有者の地黄区役員会で、登録申請を行うことが承認されたことを受け、地黄湿地再生保全検討会議としても書面決議により、登録申請手続きを行うことが承認された。